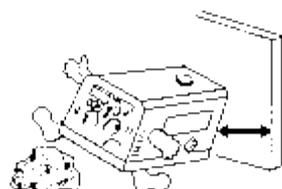


1. 運転場所での注意

- 地盤が安定しており、平坦な場所で、雨水等の浸水がないこと。（不安定な場所での運転は振動の発生原因となり、ボルト・ナットの緩み、燃料や油等の漏れ及び配線の断線など時として、重大事故に発展することがあります。）



- 点検・整備を行える十分な広さがあること。
- 腐食性や爆発性のあるガス雰囲気中では絶対に運転しないこと。
- 高温・多湿の場所では運転しないこと。特に、塩分を含んだ湿気は大敵です。また、ほこりの少ない場所を選び運転すること。
- 風通しがよく、エンジン排風及び排気ガスがこもらない場所であること。トンネルや洞穴では使用しないこと。また、室内などで使用する場合には排気管を通気の良い所まで延長して排気ガスを完全に外に排出し、かつ十分な換気を行うこと。排気管は、エンジンに排圧がかからないように十分な太さの配管を使用すること。



- 2台以上を設置し運転する場合は、機械間の間隔を大きくとり、点検できるように配置すること。また、機械に排気・排風が回り込まないようにすること。
- トレーラタイプの設置場所では、必ずパーキングブレーキをかけ、タイヤに輪止めをすること。
- 負荷設備に近い場所で運転すること。
- 機械の周囲には可燃物や引火性の危険物がないこと。
- 油火災に対する消火器を準備すること。

